

最優秀賞

神奈川県教育長賞

わたしのともだち

三浦市立上宮田小学校

二年 余田 祭

わたしの友だちに、ももかという子がいます。妹と同じ年で、まい年いつしょにりょ行に
いったり、出かけたりしています。

ももかは、かいほうせいにぶんせきついしようというびょうう氣です。生まれてからも歩け
ないとおいしさにいわれていました。だけど、わたしはももかとりよ行でいつしょに歩
くのがゆめでした。あそんでいても、いつしょに歩くれんしゅうをしました。りょ行までに、
ももかはたくさん歩くれんしゅうをしていました。2さいで出会ったももかが、5さいの時
のいづへのりょ行で、はじめて手をつないで歩くことができました。まだすぐころんてしま
うし、右と左と体ぜんぶで歩くから、とつてもゆつくりだけど、小さなわたしのゆめが、ひ

とつかったです。

小学生になつたももかは、車いすで学校に行つてゐます。わたしにとつては気づかない小さなだんさも、ももかにとつては大きなだんさで、車いすはすぐうごかなくなつてしまひます。ももかに「たすけて、といえるようになろう。」といつしょに大きな声を出されんしゅうをしたけれど、そういわれなくとも気づいてあげられる人になりたい、とも思ひました。この世界から、気づかないような小さなだんさがなくなつて、スピードが出てしまつさかもなくなつてほしい。「たすけて。」といわなくとも気づいてもらえる、やさしい世界になつてほしい。そしたら、ももかと同じ、しようがいがある友だちと、あそびをえらばずたくさんあそべるのに、と思ひます。

わたしはももかから、たくさんのこと教えてもらひました。小さなわたしは、しようがいをもつ人たちが、えがおになる世界になつてほしいと思うことしかできません。でも小さなわたしの思いがつながつて、いつか大きな世界をかえられるとしんじています。